

包岩槻

四十三万滝を過ぎ、菊池溪谷の2本の散策路のうち長い方から数歩登ると、巨大な岩の上にそびえる「包岩槻」にたどり着く。火山性の岩に巨人の指のようにしがみついた太い根は、浸食によってほとんど露出している。山肌を流れる水が巨石の周囲の土をゆっくりと洗い流し、地上数メートルの高さにこの木が乗っているのだ。

ケヤキは丈夫で、少ない栄養で大きく育つことから、神秘的なエネルギーを持つ木と信じられてきた。特に「包岩槻」のような立派なものは、神霊が宿る木と考えられていた。